

メリット多い企業の 研究所誘致

日本軽金属ホールディングス株式会社
代表取締役会長

石山 喬さん
Takashi Ishiyama



経歴

静岡県駿河区生まれ。県立静岡高校卒業。北海道大学工学部卒業。1967年、日本軽金属株式会社入社。蒲原工場、苫小牧工場などに勤務後、新潟工場長、技術・開発本部技術部長、取締役兼常務執行役員、取締役兼専務執行役員、取締役兼副社長執行役員を経て、2007年、代表取締役社長に就任。12年、日本軽金属ホールディングス株式会社代表取締役社長、15年6月から同社代表取締役会長。71歳。
北海道大学連合同窓会会長を務める。
<http://www.nikkeikinholdings.co.jp/>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

幅広い用途

日軽金の名で親しまれる日本軽金属グループは、日本を代表するアルミニウム総合メーカー。入社以来、エンジニアとしてアルミの用途開発に携わり、今年6月、社長を退任し、代表権のある会長に就いた。「アルミというと、皆さんはアルミ箔とかアルミ缶ぐらいしかイメージしないと思いますが、実はいろんなところに使われているんです」。

その一つが自動車だ。ボディーをはじめ、

エンジン、ラジエーター、エアコンのコンデンサー、バンパーなど幅広い。ブレーキやサスペンションの部品にも採用されている。「変わったところではさらさらするアルミ粉末の特性を利用して、アイシャドーにも使用されています」。

アルミの軽さや優れた剛性を生かし、新幹線のボディーの製造を新潟工場でする。ける。「あそこは土地が広いものですから」。新潟工場長をしている時に製造を始めただけに、新幹線ボディーには思い入れが

あるようだ。

近年の医薬品や食品工場、半導体製造工場などのクリーンルーム用の断熱パネルや周辺機器を提供し、この分野でトップシェアを誇る。コンビニ内の冷蔵庫も扱う。

「お客さんのニーズに合った材料や製品をつくるためには、ものすごい技術の蓄積がいるんです」。エンジニアとしての自負のぞく。

自分の「強み」を磨く

静岡市の将来像に関しては「企業の研究所を誘致したい」と思っています。東京から近いし、自然はあるし、子育てにもいい」と指摘。「弊社は蒲原に研究所グループ技術センター」がありますが、眺望抜群の日本平なんかは誘致場所として適していると思います」。

「大道芸」も、「もっと大きなイベントにしてほしいですね。民間からお金を集めて優勝賞金のアップなども検討してみたいです」。

東京でビジネスをする場合の留意点を尋ねると、「自分の強みは何か、売り物として何があるか、そしてあつたらそれに磨きをかける。ビジネスモデルのアイデアでもいいと思うんです」。高校時代は柔道、大学でヨット、会社ではアイスホッケーを経験したというスポーツマンでもある。

(文：長田義明、写真：日本軽金属ホールディングス株)